

庄原市行政評価シート

平成 26 年度評価

事務事業名	庄原市農林施設整備事業補助金交付事業		
実施期間	平成 17 年度 ~ 平成 年度 (終期の設定のない場合は、終期を空白)	所管課	農村整備課

長期総合計画	02-01-01	さとやま資源の活用で地域が輝くまち(産業・交流)	農林水産業の振興	農業の振興
予算科目	会計 01 一般会計	目 01 耕地総務費	款 06 農林水産業費	項 02 耕地費
			事業 3602 耕地推進事業	

対象者	農林業基盤等を整備しようとする受益者	対象者数など	
根拠法令・計画等	庄原市農林施設整備事業補助金交付要綱(平成17年庄原市告示第115号)		
HPアドレス	http://www.city.shobara.hiroshima.jp/government/section/post=135.html		

実施目的	農林業基盤等を整備しようとする受益者の負担軽減及び農村環境の保全を図る。
事務事業の概要	<p>・補助対象事業は、金額が少額である等の理由により、県の補助事業の対象とならない工事で、かつ工事費10万円以上のもの。ただし、農地災害復旧工事については25万円以上40万円未満(40万円以上の災害は、国の補助金の対象となる場合があるため。)とする。</p> <p>(1) 農道又は林道(橋を含む。)の舗装工事や道路を拓げる等の工事 (2) 治山のための土留等工事(山が崩れる恐れがあるところにブロック積や勾配を緩くして崩れにくくする工事) (3) ため池の用途廃止のための工事(安全に廃止するための工事) (4) かんがい排水施設の改修工事(土の水路をコンクリートの水路にしたり、古くなり壊れた水路を直す工事) (5) 農地及び畦畔(暗きょ排水を含む。)の改修、改良工事(田んぼのアゼを壊れにくくする工事等) (6) 農地災害復旧工事(水害などにより崩れた田んぼやアゼを直す工事)</p> <p>・補助金額は、事業に要した実際の費用と、毎年度市が定める標準設計による工事費用を比較し、いずれか低い額に25%を乗じて得た額。なお、補助金の上限額は、1カ所につき1会計年度37万5千円とする。</p>

年度別実績概要	
平成 23 年度	交付件数 65件 交付額 12,045千円
平成 24 年度	交付件数 104件 交付額 17,510千円
平成 25 年度	交付件数 81件 交付額 14,748千円

実績指標

(単位:千円)

事業費 (インプット)	項目	内容	H 23	H 24	H 25	合計
	事業費	補助金		12,045	17,510	14,748
						0
						0
		事業費計	12,045	17,510	14,748	44,303
	国県補助金					0
	財源	地方債				0
		その他				0
		一般財源	12,045	17,510	14,748	44,303

実績 (アウトプット)	指標名称		単位	基準値	H 23	H 24	H 25	合計
	1	補助金交付件数	件		65	104	81	250
2							0	
3							0	
成果 (アウトカム)	1	数値化が困難						0
	2							0
	3							0
備考								

事務事業名		庄原市農林施設整備事業補助金交付事業		所管課	農村整備課		
評価項目	所管課評価	市民意見	評価委員会 評価	評価分布			
				市民意見		評価委員会	
優先度	A	A'	A	分布	平均	分布	平均
A	同じ分野の他の事業と比較し、優先度が高い事業である。			8		6	
B	同じ分野の他の事業と比較し、優先度は中くらいの事業である。			6		1	
C	同じ分野の他の事業と比較し、優先度が低い事業である。			1	0	0	1
認知度	B	B	B	分布	平均	分布	平均
A	対象者以外にも、おおむねの内容は知られている事業である。			7		1	
B	対象者には、おおむねの内容は知られている事業である。			2		6	
C	一部の者を除き、事業があることすら知られていない。			6	0	0	0
有効性	B	A	A	分布	平均	分布	平均
A	費用に対して、効果・成果が高い事業である。			10		5	
B	費用に対して、効果・成果が中くらいの事業である。			4		2	
C	費用に対して、効果・成果が低い事業である。			1	1	0	1
受益者満足度	A	A'	A	分布	平均	分布	平均
A	受益者(対象者)は、満足している事業内容である。			4		4	
B	どちらともいえない。			2		3	
C	受益者(対象者)が、満足できない事業内容である。(改善要望がある ほか。)			1	0	0	1
市民(納税者)納得度	A	B	B	分布	平均	分布	平均
A	目的・費用・自己負担・内容等から、対象者以外も納得できる事業である。			1		2	
B	どちらともいえない。			5		5	
C	目的・費用・自己負担・内容等から、対象者以外は納得できない事業である。			2	0	0	0
代替性	B	A'	A	分布	平均	分布	平均
A	収益性や技術面から民間での実施が難しく、市が実施すべき事業である。			7		4	
B	民間での実施も可能であるが、公共性・公平性などから市が関与すべき事業である。			5		3	
C	市の関与は委託や助成とし、民間等での実施を検討すべき又は市が関与する必要はない事業である。			1	0	0	1
まちづくり基本条例適合性	A	B	B	分布	平均	分布	平均
A	市民(団体等を含む。)の自立を促進する事業である。			3		3	
B	市民の自立促進までは期待できないが、条例の趣旨(市民が主役のまちづくり)に沿った事業である。			10		4	
C	条例の趣旨に沿った実施形態となるよう、手法・内容を見直すべき(終了を含む。)事業である。			2	0	0	0
所管課評価	現行どおり						
評価詳細	本事業は、農地保全に大きな効果があると思われるが、今後、施設老朽化により需要が拡大することも予想され、全額市の負担により実施していることから、市の財政状況を考慮すると補助率の引き上げ等は難しいと考える。 農家の営農意欲を維持し農村環境を守っていくためには、最低限、現行の補助金制度を継続することが適当と考える。						
所管課が課題と考える内容	農家の高齢化、担い手不足により、農家戸数の減少により各戸にかかる負担が大きくなっていること等から、耕作放棄地や維持管理が行われない農業用施設の増加が懸念される。 また、ほ場整備事業実施地区は、その多くが施工後30年程度経過し、施設等の老朽化による改修要望が多い。						
市民意見(プラモニ)	※市民意見は、意見数集計のみを評価とします。(プラモニとしての総括評価はありません。) ※全意見は、ホームページに掲載しています。						
意見数分布	現行どおり	拡充	見直し	縮小	終了	総回答数	
	9	3	1	2	0	15	
主な意見	<p>【拡充】</p> <p>・庄原市においては農業及び林業は生活の基盤をなすものである。高齢化により農地や林地が荒廃していけば自然災害も起こりやすくなることは明らかです。財政状況が厳しいとはいえ、農家、林業者の自己負担を軽減し、若者が起業あるいは後継ぎとして参加しやすくなるためにも補助率の引き上げや個人による小規模なほ場整備にも補助していくことを要望します。</p> <p>【見直し】</p> <p>・補助対象事業を細分化すべきだと思います。一律25%の補助ではなく治山や治水など多くの住民への影響が考えられる場合は30%とか影響が少ないと思われる場合は20%とか分けて考えた方がいいと思います。</p> <p>【縮小】</p> <p>・農林施設を守ることは大切だと思いますが、通常、災害でも個人の財産を直すのには、家や商店・工場などでは、自分で火災保険をかけておすと思います。補助金ではなくて安い利率での貸付でもいいのではないのでしょうか。</p>						

事務事業名	庄原市農林施設整備事業補助金交付事業	所管課	農村整備課
-------	--------------------	-----	-------

行政評価委員会評価		現行どおり				※行政評価委員会の摘録(会議内容)は、ホームページに掲載しています。
総括意見	<p>本事業は、地域の豊かな環境(国土)を将来にわたり守るための取り組みであり、「現行どおり」の評価とする。 なお、事業の推進にあたっては、下記の事項について検討し、より効果的かつ効率的な事業が展開されるよう努められたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の財政状況に応じ、適宜、補助率の見直しを検討すること。 ・補助対象となる事業について、指標・基準を定めること。(地域の耕作放棄地の割合や担い手の状況等を勘案) ・国県補助金の対象とならない事業に限り、市の補助制度を適用すること。 ・本補助事業をはじめ地域で実施されている様々な農業振興策について、各地域で情報を共有できる仕組みをつくること。 					
 ※委員会における最終的な評価として総括したものであり、最も分布の多い評価を優先するものではありません。						
評価分布	現行どおり	拡充	見直し	縮小	終了	
	6	1				
各委員の意見	<p>【現行どおり】</p> <p>①高齢化や人口の減少により地域の田畑を見て分かるように農業の衰退は進んでいます。庄原いちばんづくりに農業の振興・復活は欠かすことのできない重要施策であると認識するとあります。庄原が緑あふれ、豊かな農作物の生産ができるようにしていただきたいと思います。また、定住と合わせて考えても中山間の場合、家だけでなく田や畑、山は常にセットだと思っています。今後の状況次第と思いますが、現行通りで継続をと考えます。</p> <p>②農村環境保全のためには、とても重要で効果の高い事業だと思っています。今置かれている厳しい現状(従事者の高齢化、施設の老朽化)を考えると継続すべき事業だと思っています。今後は補助金交付だけでなく、いろいろな対策を考えていかなければ、農林業という大切な産業を維持していくことが難しくなると思います。</p> <p>③農地の環境を守り、後継者が農業を続けられるよう、継続していただきたい事業であると思う。農地を整備したけれど、いつの間にか放棄され、荒廃するようなことがないよう、農業を続けられる環境と意欲を継続できるよう働きかけていただきたい。 財源確保が現状可能であるか、否かで、今後、補助率は変動しても、しかたないのではないかと。</p> <p>④所管課の評価のとおり、農地の保全のため、現行の補助制度は継続することが必要と考えます。</p> <p>⑤当地域の主要な産業として、地域を守る視点からも必要な事業だと思っています。必要な方に周知を適切に行いながら、利用者の声をしっかり聞きながら事業を進めていただきたいと思っています。</p> <p>⑥中山間地域の維持等には必要な事業であるが、市の財政状況等から全てに対応するのは困難だと思っています。 施設等の老朽化対応等は、早急に指標等を作成され、関係者の了解が得られる必要があると思います。</p> <p>【拡充】</p> <p>⑦国・県の事業となるべく、地域とともに検討をする。担い手や事業集約等高齢化する地域の将来を地域とともに考える。先進地等があれば紹介するなど、積極的に支援の手を差し伸べる人的支援拡充をする。 可及的速やかに対応を要する事業を、止むを得ず市の事業として処理していけばと考えます。 庄原市の大半が対象地域となると考えられるので、各地区の取組格差を減らす事が必要だと考えます。</p>					